

平成 2 4 年度

笠岡市施策評価報告書

平成 2 4 年 1 0 月

笠岡市施策評価委員会

笠岡市の施策評価の実施にあたって、施策評価委員会による評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめましたので、報告します。

笠岡市長 三 島 紀 元 殿

平成24年10月2日

笠岡市施策評価委員会
委員長 小 林 正 和

1 笠岡市の行政評価について

笠岡市では、大切な限りある資源（人・物・金）を有効に活用していくため、行政が進める施策や事務事業に具体的な目標を設け、一定の基準に基づいて評価検証し、その結果を改善に結び付けていく行政評価が実施されています。

この評価サイクルを確立し、継続的に評価検証を進めていくことで、行政活動の透明性が高まり、結果を公表することで説明責任が果たされ、市民の満足度がより高まり、行政運営の質的な向上が期待されます。

2 施策評価について

平成13年度から事務事業評価が実施され、平成19年度からは施策評価を導入し、総合計画とも連携した新たな仕組みづくりが進められました。

こうした中で、施策評価による施策の重点化、施策体系の見直し等を踏まえ、平成22年度を初年度とする第6次笠岡市総合計画が策定されました。

平成23年度からは、目指すべき都市像の実現に向け、総合計画の進捗状況をチェックするとともに、各施策の方針や今後の展開を明確にしていくため、施策評価委員会を設置し、施策評価を実施しています。

3 施策評価委員会の設置について

(1) 目的

施策の実施担当部局が行った自己評価を、政策部門・内部管理部門の管理職員及び各部局の職員が第三者の視点で評価することにより、評価の客観性を高めるとともに、行政組織外部の有識者及び市民の代表者が市民の目線で評価を行うことにより、評価の妥当性・透明性を確保し、信頼性を高めることが目的とされています。

(2) 委員構成

施策評価に対する共通認識を深めるため、外部委員と内部委員の混合で構成されています。（合計10名）

外部委員：総合計画審議会の委員長、副委員長、各部会の座長（計5名）

内部委員：政策部長、総務部長、庁内選出（計5名）

委員名簿は別紙のとおり

4 評価対象施策について

施策評価は、第6次笠岡市総合計画に計上されたすべての施策について、評価対象とされています。

○ずっと住みたいまち：	1 施策	
○快適で安全なまちづくり：	1 4 施策	
○心豊かな人づくり：	6 施策	
○安心して暮らせるまちづくり：	9 施策	
○活気あるまちづくり：	7 施策	
○人と人がつながるまちづくり：	2 施策	
○計画実現に向けた取組：	1 1 項目	計 5 0 施策・項目

5 評価の結果等について

(1) 評価の方法及び経過

①施策実施担当部局が作成した施策評価シート及び関係資料に基づく書面評価と、委員会でのヒアリングを実施しました。

②評価の視点

施策評価の仕組みをより信頼性の高いものとするため、

- ・指標の達成状況から見た現状分析が妥当であるか
- ・施策を構成する事業の進行状況の現状認識が妥当であるか
- ・これらを踏まえた改善策が適切に方向付けされているか
- ・総合評価としての認識が妥当であるか

といった視点で評価を行いました。

③委員会の開催状況

日 時	内 容
8 月 8 日（水）	第 1 次施策評価委員会 評価方法及び進め方等の確認，ヒアリング実施施策の選定
8 月 2 3 日（木）	第 2 次施策評価委員会（1 日目） 施策評価シートヒアリング及び評価
8 月 2 7 日（月）	第 2 次施策評価委員会（2 日目） 施策評価シートヒアリング及び評価
8 月 2 9 日（水）	第 2 次施策評価委員会（3 日目） 施策評価シートヒアリング及び評価 これまでの委員会を踏まえての協議・まとめ

(2) 評価の結果

① 総評

委員会としては、

A：計画どおり進行している。

B：おおむね計画どおり進行している。

C：計画より一部遅れている。

D：計画より遅れている。

の4段階で評価を行いました。

ヒアリングした施策は19施策・項目中、A評価が0、B評価が15、C評価が4、D評価が0であり、ヒアリングをしなかった施策は書面だけで行い、31施策・項目中、A評価が3、B評価が28、C評価が0、D評価が0となりました。この結果、全50施策・項目中、A評価が3、B評価が43、C評価が4、D評価が0となりました。

(評価結果一覧表は別紙のとおり)

各施策に対する意見等はそれぞれの評価シートに記載のとおりですが、計画の進行状況はA評価とB評価を合わせると46となり、昨年度の45より増加していること、C評価の施策は4つあるものの、昨年と比べ一つ減ったことなどから、順調に進んでいるものと考えます。しかしながら、A評価の3つはすべて「計画実現に向けた取組」であり、実際に取り組んだ施策については0と、厳しいものとなりました。また、昨年度の総合評価Cや委員が聞いてみたい施策を中心に選びヒアリングしましたが、やはり問題がある施策が多いように感じました。

② 改善を望む項目等

【評価シート】

シートの作成にあたって、

- 1) ほとんどの部署で、昨年とほぼ同じ文章・内容であること
- 2) 記載内容の書き方が昨年と同じように各部署によって異なり、統一がされていないこと
- 3) 記載内容があいまいな書き方であること
- 4) 自己評価が中央集中化傾向にあり、多くはB評価になっていること
- 5) 施策の取組内容が、多くは実施計画事業順ですが、一部は実施計画の「今後の取組」項目順になっていること
- 6) 昨年の委員のコメントに対して、対策・説明が書かれていないこと

等、昨年とほぼ同じことが繰り返されており、改善されていないことが分かりました。

【評価の方法】

評価にあたっては、

- 1) 昨年の委員のコメント、評価、質問事項等が事前に配付されていた方が、より理解が進んだものと考えられること
- 2) ヒアリングをしていない施策の評価が書面だけになるので難しかったこと

等の問題点が見受けられたので、次回は事務局によりこれらの点の改善を徹底していただき、円滑な評価が実施できることを期待します。